

私のカルテ

No. 385

認知障害と自動車運転



津島市民病院
副院長兼脳神経内科統括部長
兼医療安全管理部長
山名知子
やまな ともこ

認知症の運転者は、健常者に比べて2.5～4.7倍の高い事故率を有することが報告されています。

さて、認知症の人は、なぜ運転に支障が出てくるのでしょうか。

①運転中は様々な判断を瞬時に行わなければならない

周りの車、歩行者、自転車の動き、信号の色や標識などの情報のとりこみ、車の接近を把握、周囲の状況把握、信号の色の変化を把握などの認知判断をし、ブレーキを踏む、ハンドルを右に切る、ウインカーを出すなどの行動があり、情報が次々と変わっていき、そのたびに認知判断を繰り返すというように認知機能は運転への影響が大きいです。不測の事態に対して絶対に素早く反応し、目先の道路に焦点を定めて集中するのはとても難しいことです。さ

らには、すべてのペダル、レバー、文字盤、ライトを覚えて、それらがどう動くのか、何のためのものか、そして自分が次にすべきことは何なのか、覚えておかななくてはならないのは大変なことなのです。

②有効視野の狭窄化

高齢になると、視野が狭まる、運転中の反応動作が鈍る、長年の運転による過信などが認知症患者による危険運転の実態です。奥行きとコントラストの感覚が鈍くなっており、空間がうまく認識できなくなり、有効視野が狭くなり、交差点で出会い頭に衝突する事故、運転中にセンターラインに寄っていく運転になります。

運転にあらわれる認知機能低下「早期発見チェックリスト30」

- 車のキーや免許証などを探し回ることがある
- 今までできていたカーステレオやカーナビの操作ができなくなった
- トリップメーターの戻し方や時計の合わせ方がわからなくなった
- 機器や装置(アクセル、ブレーキ、ウインカーなど)の名前を思い出せないことがある
- 道路標識の意味が思い出せないことがある
- スーパーなどの駐車場で自分の車を止めた位置が分からなくなることがある
- 何度も行っている場所への道順がすぐに思い出せないことがある
- 運転している途中で行き先を忘れてしまったことがある
- 良く通る道なのに曲がる場所を間違えることがある
- 車で出かけたのに他の交通手段で帰ってきたことがある
- 運転中にバックミラー(ルーム、サイド)をあまり見なくなった
- アクセルとブレーキを間違えることがある
- 曲がる際にウインカーを出し忘れることがある
- 反対車線を走ってしまった(走りそうになった)
- 右折時に対向車の速度と距離の感覚がつかみにくくなった
- 気がつくと自分が先頭を走っていて、後ろに車列が連なっていることがよくある
- 車間距離を一定に保つことが苦手になった
- 高速道路を利用することが怖く(苦手)になった
- 合流が怖く(苦手)になった
- 車庫入力で壁やフェンスに車体をこすることが増えた
- 駐車場のラインや、枠内に合わせて車を停めることが難しくなった
- 日時を間違えて目的地に行くことが多くなった
- 急発進や急ブレーキ、急ハンドルなど、運転が荒くなった(と言われるようになった)
- 交差点での右左折時に歩行者や自転車が急に現れて驚くことが多くなった
- 運転している時にミスをしたり危険な目にあったりすると頭の中が真っ白になる
- 好きだったドライブに行く回数が減った
- 同乗者と会話しながらの運転がしづらくなった
- 以前ほど車の汚れが気にならず、あまり洗車をしなくなった
- 運転自体に興味がなくなった
- 運転すると妙に疲れるようになった

5つ以上にチェックが入った人は要注意。専門医の受診検討を!

NPO法人「高齢者安全運転支援研究会」作成。鳥取大学医学部 浦上克哉教授監修

自主返納制度とは、高齢者等が運転に不安を感じるなどで、自主的に運転免許の取り消し申請ができるというもの(平成10年から施行)です。自主返納の手続きは住所地管轄の警察署や運転免許試験場で行うことができ、有効期限内の返納であれば、過去に運転経歴があることを証明する「運転経歴証明書」をもらうことができます。

